

1 試験に向けた準備の状況

	学科	実技
いつ頃から始めたか	7月頃から	9月頃から
どのような内容を、どの程度行ったか	テキストとしては各分野の先生の書籍を使用して勉強していました。1周精読した後は通勤時間や昼休みなどに読み、受験までには計3周ずつくらいしたかと思います。9月後半から問題演習を開始し、過去問集を数冊解きました。	論述については、過去問集（緑色の表紙）にある「実技試験の視点・考え方」の章を精読し、アプローチの仕方を学びました。面接試験については、国分康孝先生のDVDを見、12/24, 25日に開講された1級キャリアコンサルティング技能士の会の「2級実技（面接）試験 全5ケース攻略法確立講座」を受講しました。講座で作成したタスク表を頭に叩き込み、ロールプレイの録音を聞き直し、講座で学んだ考え方を忠実に実行することを目指しました。
準備に対する振り返り	テキストを精読し、焦って問題ばかり解かず体系的理解を優先したことが良かったように思います。	論述に関しては、結果として合格したものの、演習が不足しておりとても不安でした。面接については、もともと苦手意識があったため、講座を受講し、そこで学んだことを身に付け実践することのみに専念したことが良かったように思います。
これから受検する人へのアドバイス	学科試験で問われる内容は実技試験で行うことの理論的支柱となるもののため、きっちり理解しておくべきだと感じました。参考書を精読するだけでは不安な場合は、セミナーなどを受講するのも有用とされます。	実技試験は独学、我流ではなかなか合格出来ないと思います。私は1級技能士の会の講座を知るのが遅かったため、1回の面接講座しか受講出来ませんでした。非常に論理的かつ実践的な講座で、些末なテクニックに走ることなく本当に必要な内容を身につけることができました。これから受験される方々も、論述や面接対策の講座をご活用されると、効率よく力が付けられると思います。

2 論述試験への取組

問1を解答するときに注意したこと

解答に入れるべき要素について、取りこぼしがないようにすることを心がけました。相談者の気持ちが出ている発言などを注意深く拾い出しました。

問2を解答するときに注意したこと
 解答根拠が明確かどうかを意識しました。自分の思い込みでなく、逐語記録のどの部分からそのような結論が導き出せるのかを考えながら解答しました。また問1, 2についてはCL視点とCC視点を混同していないかを特に注意して見直しました。

問3を解答するときに注意したこと
 問2と同様に、目標と具体的方策について根拠があるかどうか、問1, 2で見出した問題について適切な目標設定、解決策になっているかを意識しました。

論述試験対策のポイント
 問1から3まで、解答に一貫性があること、大事な要素について取りこぼしをしないことが大事だと思います。

これから論述試験を受験する人へのアドバイス
 論述試験が終わり、1級技能士の会の面接対策講座を受けた後に感じたのですが、論述と面接の基本的な考え方は一緒だと思います。CL視点の問題を把握し、CC視点の問題を抽出し、目標と具体的方策につなげていくという流れは論述と面接どちらも変わりません。闇雲に書く練習をするのではなく、根本的な考え方をきちんと学ばれることをおすすめします。

.....

3 試験当日の状況

試験日：1月8日 試験会場：名古屋 事例番号：1

4 試験の状況

①導入部	椅子の位置の確認や自己紹介から守秘義務についてなど、事前に決めていた通りに行いました。
②基本的態度	あいづち、伝え返し、うなずきなど基本的なことを着実にやるよう心がけました。緊張して縮こまってしまっていたので、もっと大ききにかつにこやかにやるべきだったと思います。 受容的態度を心がけつつCLの発言を適度に拾い詳細を聞き出しました。
③関係構築	CL役の方が積極的に話してくれたので、それを遮らないよう気をつけました。CLの気持ちが出ている発言にたいしては共感を心がけました。
④問題把握	ある程度話が出尽くしたところで要約を行い、こちらの理解した内容に取りこぼしがないか確認しました。面接官から「この受験者は理解しているな」と思われるような要約を心がけました。
⑤具体的展開	こちらが一方向的に進行しているとの印象を与えないために、常にCLの確認をとりながら進める、可能であればCLにどうしたいか言わせるよう意識しました。方策について複数案を示し、実行する順序について話している途中で時間切れとなりました。
⑥口頭試問の内容と回答	「面接の良かったところ・悪かったところ」「CLとの関係構築はできたか」「相談者が訴えた問題」「あなたがとらえた問題」などを問われました。それぞれについて、「どのようなところからこのように考えました」という形で答え、そのように考えた根拠を面接の場面や具体的な発言から示すよう心がけました。

これから受検する人へのアドバイス

面接は、必ず緊張すると思います。私はどうせ緊張して練習通り行かないと思っていたので、変に「うまくやろう」としないようにしました。

むしろ「緊張しようがしまいがやることは一緒だから、根本的なやり方だけは踏み外さ

ないようにしよう」と考え、「ラポールの形成さえできていれば素直に話してもらえるはずだから、途中で取り違えや取りこぼしがあれば CL に聞いて訂正してもらおう」くらいの気持ちで望みました。

こういった気持ちで受験できたのも、1 級技能士の会の講座でタスク表を作成し、各ケースで起こりうるパターンや問題の要素を一通り整理していたからだと思います。

もちろん練習通りに行くのが理想ですが、緊張して思うように行かなくても事前の準備を思い出し基本通りに進めれば、多少ぎこちなくてもなんとかなると思います。